

地域包括ケア「見える化」システム研修会 (入門編)

- Step 1 -

公立大学法人埼玉県立大学
吉田 俊之

自己紹介

●所属

埼玉県立大学 地域連携センター 教授

●委員等

厚生労働省 社会保障審議会福祉部会 委員

●研究テーマ

地域包括ケア、ヘルスケアポリシー、ヘルスケアマネジメント、社会保障

●主な研究調査、支援

(これまで)

- 介護分野の生産性向上ガイドライン等の策定、事業者への業務改善の伴走支援
- 介護分野の介護ロボット・ICT導入、導入と使いこなしの伴走支援
- 介護保険事業計画支援、介護報酬改定影響調査
- その他、文書量削減、保育部門の業務改善活動 ほか

(最近のテーマ)

- 計画策定に関する自治体支援
- リエイブルメント
- 社会福祉連携推進法人／協働・連携
- 在宅医療介護連携
- 障害者向け支援機器の開発に関する人材育成プログラム
- Co-production

研修のねらい

- ① 見える化システムの基本的な操作の習得
- ② 見える化システムを使ったグラフの描画の習得
- ③ データの基本的な読み解きの習得
- ④ データを使って事業や取り組みを育てる考え方の習得

到達目標 (初級編)

- 見える化システムを使う抵抗感がなくなる。
- 基本的な操作をスムーズに行えるようになる。
- 1つの指標を使ったグラフが示す意味を読み解けるようになる。
- 2つの指標を組み合わせたグラフが示す意味を読み解けるようになる。
- データ結果と事業の状況を結びつけて考えることができるようになる。

研修の構成 (初級編)

ステップ	日にち	テーマ
1	7/24 (本日)	操作方法
2	8/7	簡単なグラフをつくる ー 1つの指標の読み解き ー
3	8/21	少しステップアップしたグラフをつくる ー 2つの指標の組み合わせ ー
4	9/4	「見える化」システムの日々の事業への活用

あなたにとってより良い研修となるために

- 目的は基礎的な操作スキルの習得です。そのため、講義的な時間よりも、皆さんと私が同時に見える化システムを操作する時間に研修時間を多く割り当てます。
- できるかぎり、画面をオンにして参加ください。
- 機能や操作を直感的に理解できるように、個別の自治体を取り上げています。特別な意味はありません。
- 発言や質問などのグループ全体への貢献を歓迎します。

スケジュール (1日目)

セッション	日にち	テーマ
1	13:30-13:33 (03分)	講師紹介／研修を始めるにあたって
2	13:33-13:35 (02分)	アイスブレイク
3	13:35-13:40 (05分)	見える化システムを使ってできること
4	13:40-14:00 (20分)	画面の構造を理解しましょう／チャレンジ（10分）
5	14:00-14:30 (30分)	現状分析の基本操作／チャレンジ（15分）
6	14:30-14:50 (20分)	取組事例の基本操作／チャレンジ（15分）
7	14:50-15:00 (10分)	質問コーナー／事務連絡

ICE BREAK

- Zoom機能を使ってみよう
 - カメラの位置／オン・オフ
 - マイクのオン・オフ
 - 画面を通じた意思表示（大丈夫、ちがう、無理）
 - アイコンの活用
 - 画面共有
 - ブレイクアウトルーム

見える化システムを使ってできること

- データを使って実態を見える化する主な意義
 - 立場の異なる者同士で共通の認識をつくる
 - ✓ どのように**変化**しているか (推移や見通し)
 - ✓ どこに**位置**しているか (分布、進捗)
 - ✓ どのような**関係**があるか (関連、因果関係)
 - ✓ 重要な**新しい兆候**はあるか (潜在ニーズ)
 - ロジックモデル等を用いた地域戦略づくりの根拠

「画面の構造」を理解しましょう(1/2)

1. ログイン



2. TOP



3. 現状分析



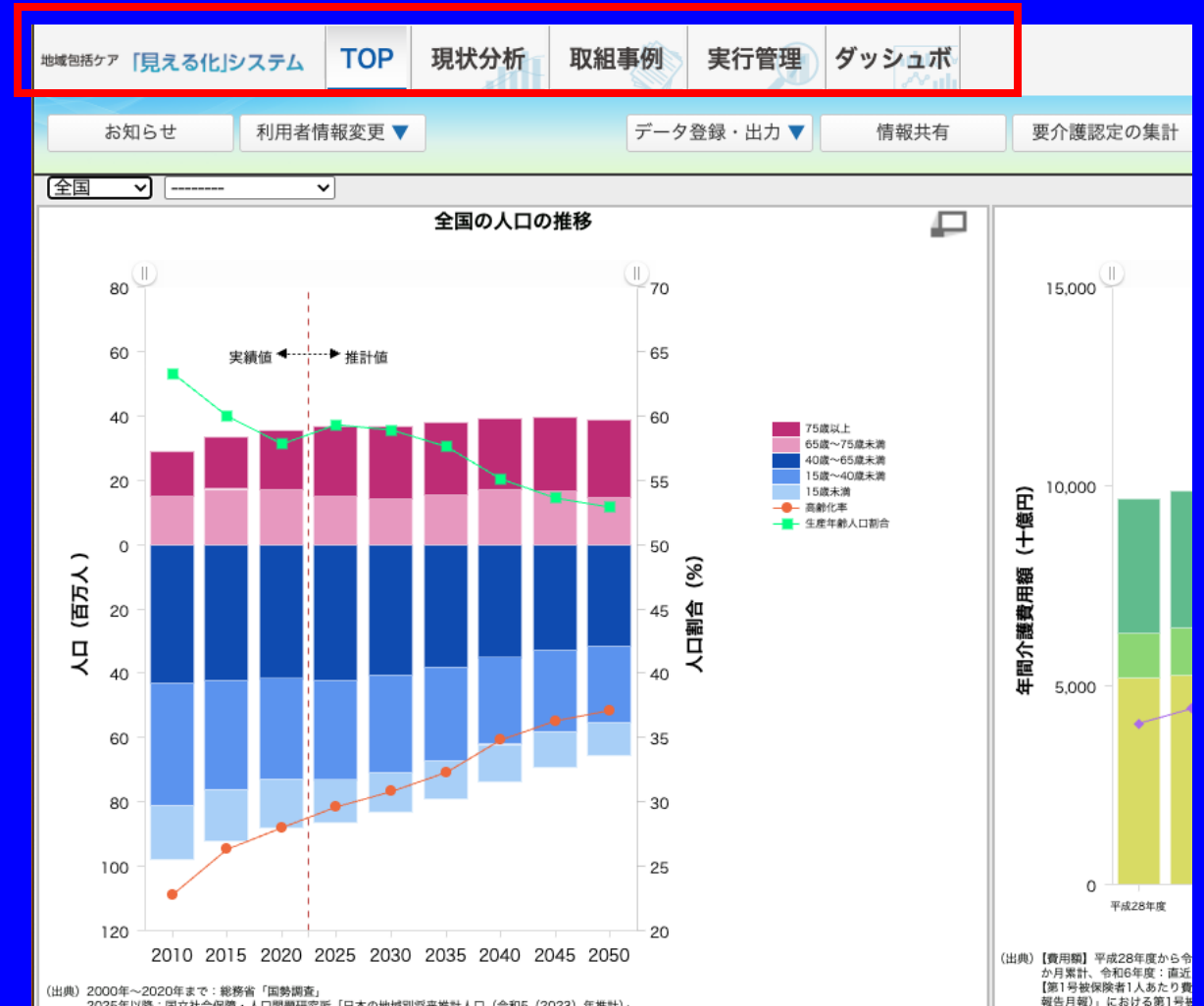
4. 取組事例



5. 実行管理



6. ダッシュボード



「画面の構造」を理解しましょう(1/2)

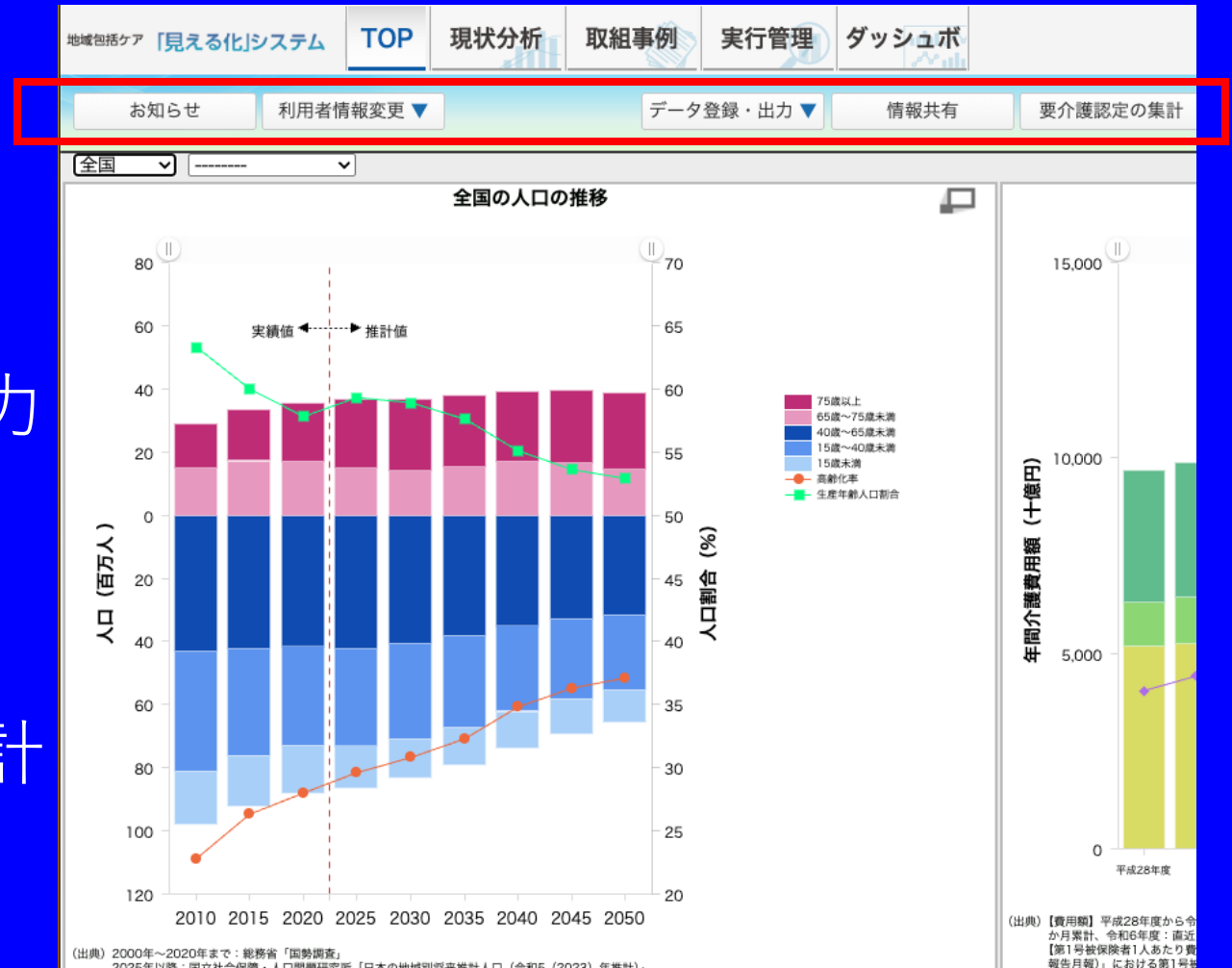
7. お知らせ

8. 利用者情報変更

9. データ登録・出力

10. 情報共有

11. 要介護認定の集計



チャレンジ0

(1→11の順にアクセスしてみる)

1. ログイン



2. TOP



3. 現状分析



4. 取組事例



5. 実行管理



6. ダッシュボード

7. お知らせ



8. 利用者情報変更



9. データ登録・出力



10. 情報共有

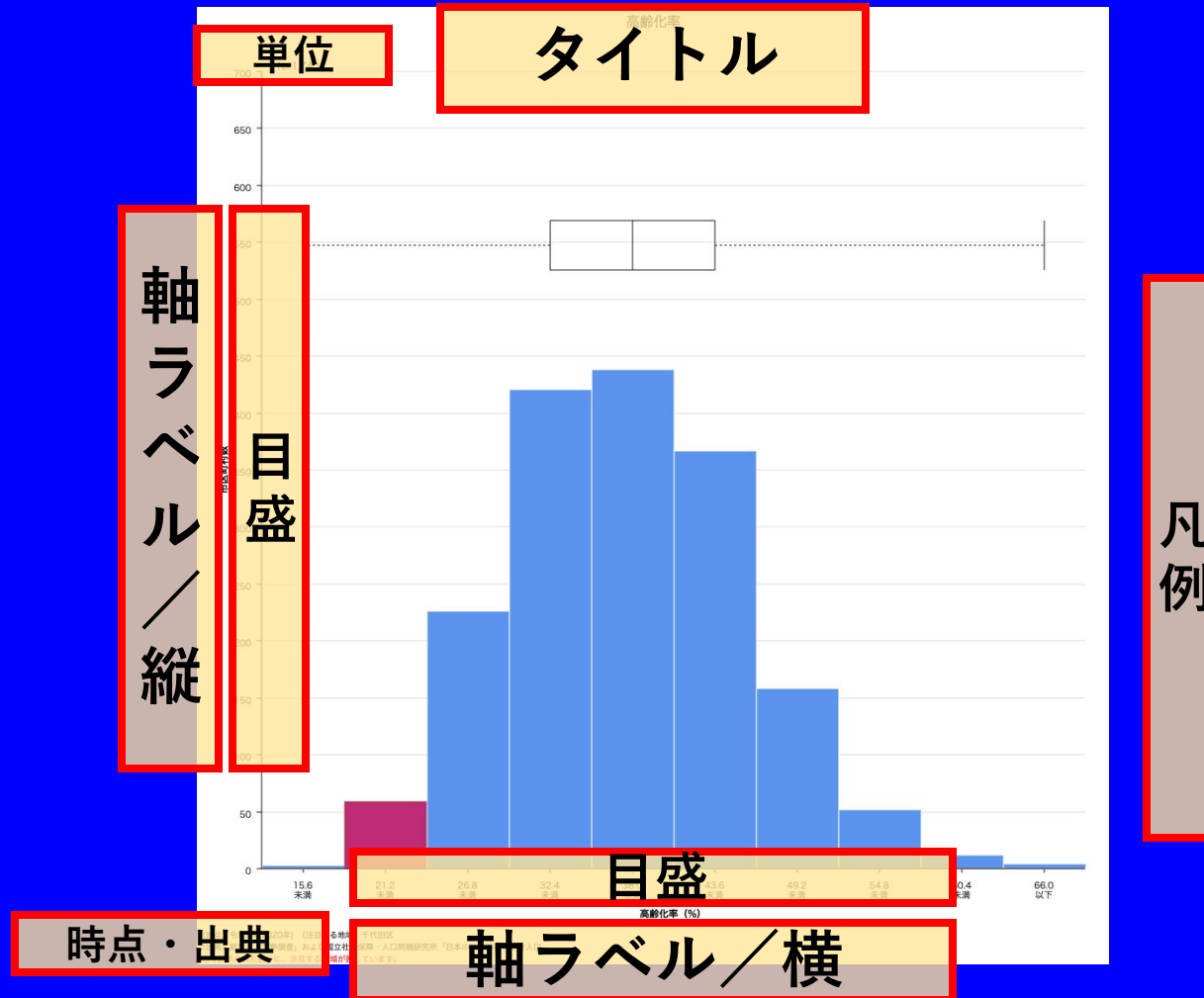


11. 要介護認定の集計

TOP画面

- 4つのグラフ
 1. 人口の推移
 2. 要介護認定者数、要介護認定率の推移
 3. 介護費用額の推移
 4. 保険料額の推移

グラフを構成する 8 つの基本要素



現状分析の基本操作

基本の使い方

1 / 4 見たい情報を選択 指標を選ぶ／地域資源を見る



● 指標を選ぶ



● 地域資源を見る

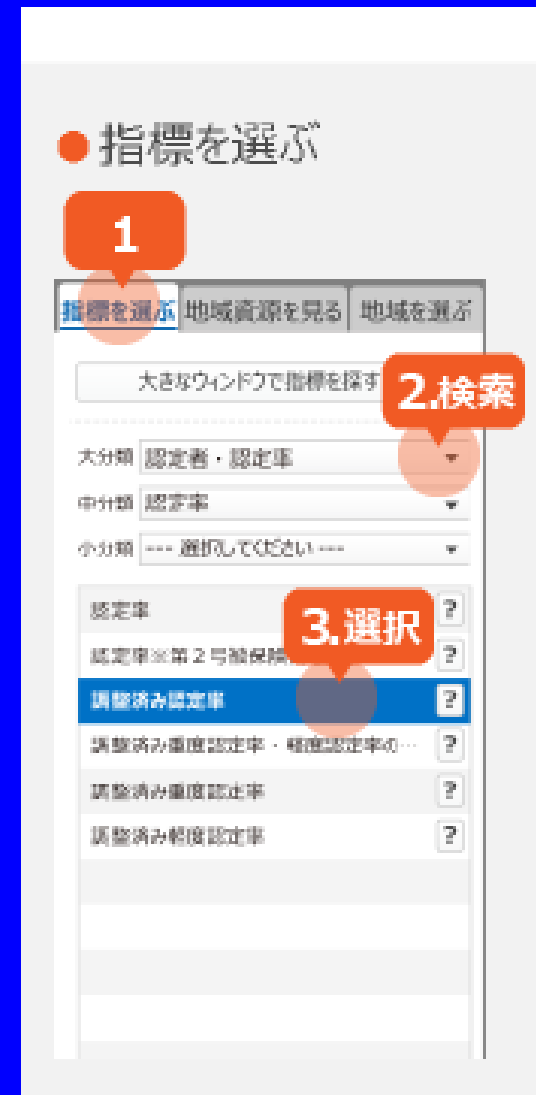


■ 現状分析機能のマニュアルは [こちら](#) からダウンロードできます。

現状分析を始める ➡

現状分析の基本操作

1. 地域を選ぶ
2. 指標を選ぶ
3. 指標を選択する
4. (自動で作図)
5. 「地域で見る」を選択
6. 「注目する地域と他を時系列で見る」を選択



現状分析の基本操作 (事前の視聴がお勧め)

操作に困った時は

操作に困った時はTOP >

閉じる

令和6年度地域包括ケア「見える化」システムの基本操作講習会の資料です。



[・令和6年度地域包括ケア「見える化」システム基本操作講習会資料](#)

令和6年度地域包括ケア「見える化」システム基本操作講習会の動画コンテンツです(1_介護保険事業(支援)計画の進捗管理等について)。



[・動画コンテンツ\(1_介護保険事業\(支援\)計画の進捗管理等について\)](#)

令和6年度地域包括ケア「見える化」システム基本操作講習会の動画コンテンツです(2-1_地域包括ケア「見える化」システムの全体像)。



[・動画コンテンツ\(2-1_地域包括ケア「見える化」システムの全体像\)](#)

令和6年度地域包括ケア「見える化」システム基本操作講習会の動画コンテンツです(2-2_地域包括ケア「見える化」システムの主な機能について)。



[・動画コンテンツ\(2-2_地域包括ケア「見える化」システムの主な機能について\)](#)

令和6年度地域包括ケア「見える化」システム基本操作講習会の動画コンテンツです(2-3-1_地域包括ケア「見える化」システムの基本操作①)。



[・動画コンテンツ\(2-3-1_地域包括ケア「見える化」システムの基本操作①\)](#)

令和6年度地域包括ケア「見える化」システム基本操作講習会の動画コンテンツです(2-3-2_地域包括ケア「見える化」システムの基本操作②)。



[・動画コンテンツ\(2-3-2_地域包括ケア「見える化」システムの基本操作②\)](#)

令和6年度地域包括ケア「見える化」システム基本操作講習会の動画コンテンツです(2-4-1_地域包括ケア「見える化」システムを用いた地域分析①)。



[・動画コンテンツ\(2-4-1_地域包括ケア「見える化」システムを用いた地域分析①\)](#)

令和6年度地域包括ケア「見える化」システム基本操作講習会の動画コンテンツです(2-4-2_地域包括ケア「見える化」システムを用いた地域分析②)。



[・動画コンテンツ\(2-4-2_地域包括ケア「見える化」システムを用いた地域分析②\)](#)

現状分析の基本操作 (指標の定義の準備)



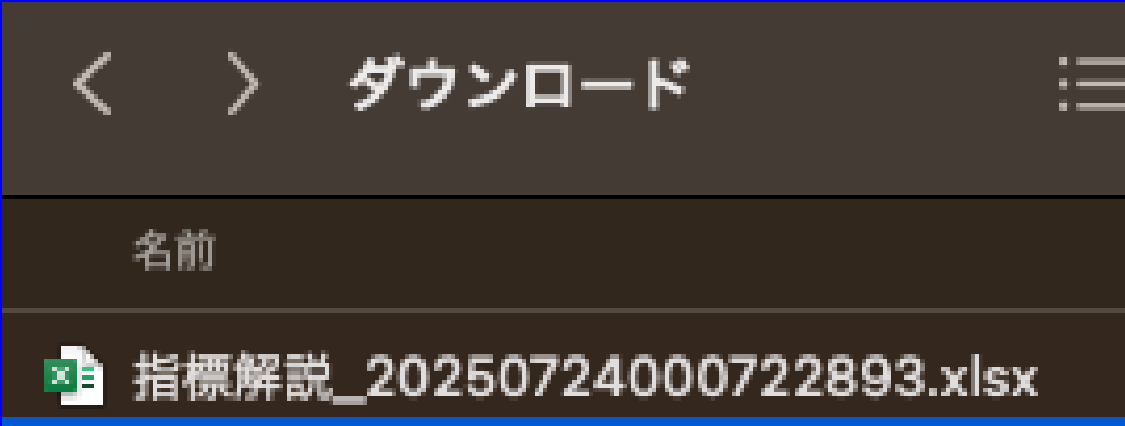
(拡大)

指標の説明を一括でダウンロードする

複数指標を選択してExcel出力する

現状分析の基本操作 (指標解説のダウンロード)

ダウンロード先を確認



1	大分類	中分類	小分類	指標	指標名	指標の内容・指標を見るポイント	指標に関する用語の説明
428	介護予防・日常生活圏ニーズ調査	各種リスクを有する割合	運動器機能リスク高齢者の割合	E1	運動器機能リスク高齢者の割合 (注目する地域及び管内日常生活圏域のみを表示)	・本指標は、各市町村から送付された第6期日常生活圏ニーズ調査および介護予防・日常生活圏ニーズ調査結果による、運動器機能リスク高齢者の割合を示すものです。 ・運動器の機能が低下している高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。 ・介護予防・日常生活圏ニーズ調査では、市区町村が独自に調査対象母集団を設定することが可能となっています。そのため、調査対象母集団が一致しない市区町村間でも比較が可能となるよう、図表1の通り特定の母集団のみを対象とした指標も掲載しています。 ・なお、注目している地域が設定している調査対象母集団は、「注目する地域及び管内日常生活圏域のみを表示」を選択した際に、画面下部に表示されます。この情報も参考にして、上記の表より表示する指標を選択してください。	・運動器機能リスク高齢者の割合は、当該地域内の「運動器機能リスク高齢者」（推計値）を、当該地域内の「要支援2以下の高齢者数」で除したものを意味します。 ・「要支援2以下の高齢者数」は調査データ登録時に入力した調査設計情報から取得します。 ・「運動器機能リスク高齢者」は、各調査において、下記の判定方法に調査結果が該当した高齢者です（図表2参照）。
429							※介護予防・日常生活圏ニーズ調査は、各地域における健康寿命の延伸に向けた効果的な介護予防・日常生活支援総合事業の取り組みの実施に向け、またその取り組みを含む介護保険事業計画の策定・実施等に向けて活用していただくため、各市町村に実施を推奨している調査です。詳しくは「介護保険事業計画作成に向けた各種調査等に関する説明会」の資料を参照ください。

現状分析 (指標ごとの定義の確認)

指標の内容・指標を見るポイント	指標に関する用語の説明
・本指標は、各市町村から送付された第6期日常生活圏域ニーズ調査および介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果による、運動器機能リスク高齢者の割合を示すものです。 ・運動器の機能が低下している高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。 ・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、市区町村が独自に調査対象母集団を設定することが可能となっています。そのため、調査対象母集団が一致しない市区町村間でも比較が可能となるよう、図表1の通り特定の母集団のみを対象とした指標も掲載しています。 ・なお、注目している地域が設定している調査対象母集団は、「注目する地域及び管内日常生活圏域のみを表示」を選択した際に、画面下部に表示されます。この情報も参考にして、上記の表より表示する指標を選択してください。	・運動器機能リスク高齢者の割合は、当該地域内の「運動器機能リスク高齢者」（推計値）を、当該地域内の「要支援2以下の高齢者数」で除したものを意味します。 ・「要支援2以下の高齢者数」は調査データ登録時に入力した調査設計情報から取得します。 ・「運動器機能リスク高齢者」は、各調査において、下記の判定方法に調査結果が該当した高齢者です（図表2参照）。 ※介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は、各地域における健康寿命の延伸に向けた効果的な介護予防・日常生活支援総合事業の取り組みの実施に向け、またその取り組みを含む介護保険事業計画の策定・実施等に向けて活用していただくため、各市町村に実施を推奨している調査です。詳しくは「介護保険事業計画作成に向けた各種調査等に関する説明会」の資料を参照ください。

現状分析の基本操作

1. 地域を選ぶ



2. 指標を選ぶ



3. 指標を選択する



4. (自動で作図)



5. 「地域で見る」を選択



6. 「注目する地域と他を時系列で見る」を選択

一緒に操作します。

見える化する指標は、

「運動器機能リスク高齢者の割合」

現状分析の基本操作 （「地域で見る」の画面）

参加自治体ごとにグラフを確認

現状分析の基本操作 （「注目する地域と他を時系列で見る」の画面）

参加自治体ごとにグラフを確認

チャレンジ1

- あなたの自治体の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を使ってみましょう。この調査にある「各種リスクを有する割合」のうち、次の指標のグラフを画面に映し出してください。
 - 認知症リスク高齢者の割合
 - 対象は、①+②+③+④
 - 「注目する地域と他を時系列で見る」のグラフ

チャレンジ2

- あなたの自治体の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を使ってみましょう。この調査にある「各種リスクを有する割合」のうち、次の指標のグラフを画面に映し出してください。
 - 介護が必要な高齢者の割合
 - 対象は、①+②+③+④
 - 「注目する地域と他を時系列で見る」のグラフ

チャレンジ3

- あなたの自治体の介護サービス受給者数や利用回数の指標を使ってみましょう。このカテゴリーの指標群のうち、次の指標のグラフを画面に映し出してください。
- 直近の年度について（例えば、R6（2024））、要介護3の値は、全国値よりも高い値といえますか。
 - 在宅・居住系サービス利用者割合
 - 「地域で見る」のグラフ

取組事例の基本操作

1. 検索範囲は、「タグ」のリストを選ぶ
▼
2. 検索キーワードは、関心のあるキーワードを入力する
▼
3. 右画面に関連する取組がリストアップされる
▼
4. タイトルをクリックし詳細を確認する
▼
5. 右下の「資料ダウンロード」をクリックし資料を落手する

※資料がない場合もあります。

一緒に操作します。

キーワードは、

「コーディネーター」

取組事例の基本操作

1. 検索範囲は、「タグ」のリストを選ぶ
▼
2. 検索キーワードは、「コーディネーター」を入力する
▼
3. 右画面に関連する取組がリストアップされる
▼
4. タイトルをクリックし詳細を確認する
▼
5. 右下の「資料ダウンロード」をクリックし資料を落手する

チャレンジ1

- 自治体で行われている、地域包括ケアの構築に向けた先進的な取り組み事例のうち、次の条件を満たす事例を見つけ、PDFをダウンロードしてください。
 - 群馬県内の自治体の取り組みです。
 - 農福連携を用いた社会参加や閉じこもり防止などの支援です。
 - 認知症施策推進事業の一環です。

チャレンジ2

- 自治体で行われている、地域包括ケアの構築に向けた先進的な取り組み事例のうち、次の条件を満たす事例を見つけ、PDFをダウンロードしてください。
 - 岩手県内の広域連合の取り組みです。
 - 医療・介護・救急機関の連携による在宅での看取り支援です。
 - 在宅医療・介護連携推進事業の一環です。

チャレンジ3

- 自治体で行われている、地域包括ケアの構築に向けた先進的な取り組み事例のうち、次の条件を満たす事例を見つけ、グループで共有してください。
 - あなたの自治体と「認定率」がよく似た自治体等の取り組みです。
 - 介護予防、社会参加、住民同士の支え合い、認とも、専門職の活用、まちづくり、のいずれかのキーワードに関連します。

発表方法

(全体で10分程度、各1分以内)

1. 私の自治体と認定率が近い自治体は「〇〇〇」です。



2. その自治体の取り組みのテーマは、「〇〇〇」です。



3. 具体的には、「〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇」といった取り組みでした。

まとめ

◆本日の到達目標

- 見える化システムを使う抵抗感がなくなる。
- 基本的な操作をスムーズに行えるようになる。

◆学習した主な機能とその操作

- 現状分析
- 取組事例

◆次回Step 2の到達目標

- 1つの指標を使ったグラフが示す意味を読み解けるようになる。

次のようなご相談は、ご遠慮なく連絡ください。

- ◆ 本研修後（4回分）のフォローアップ
- ◆ 介護保険事業（支援）計画などに関する委員会の委員、アドバイザー等
- ◆ 見える化システムの活用に関する関係者向けの研修
- ◆ ニーズ調査等の調達仕様書の設計に関すること
- ◆ その他、自己紹介のページ内容を含め、幅広く、地域包括ケアに関すること

埼玉県立大学 吉田俊之
yoshida-toshiyuki@spu.ac.jp